

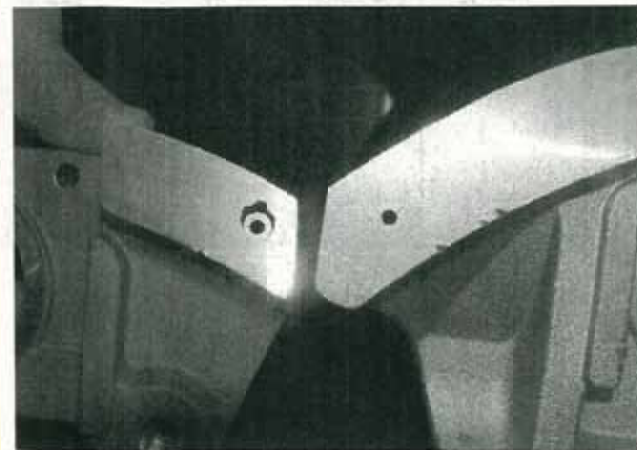
製造・ソフト

開発助成金説明会

東毛・群馬産技センターで
県工業振興課は2月24日(太田市吉沢町)、3
月に東毛産業技術センター
月3日に群馬産業技術セ
ンター(前橋市亀里町)
で、「経済産業省および
群馬県における平成22年
度研究開発助成金説明
会」を開く。

経済産業省の開発支援
策(サポートイノベーション
など)と県の開発支援
策(ぐんま新技術・新製
品開発推進補助など)を
紹介するもので、いずれ
も時間は午後1時30分
から3時30分。問い合わせ
は同課☎027-3354へ。

アルミパイプの鋳ぐるみ可能に



写真右が同社の新工法により鋳ぐるみ加工したもの。写真左はパイプの表面処理部分がガス化した不良品

アルミ合金、銅合金の鋳造加工を手掛けるサトキン(高崎市吉井町塩309-8、大塚康幸社長☎027-3320-3655)はこのほど、アルミ鋳造品におけるアルミパイプ(直径60程度)の鋳造(い)ぐるみ新工法を確立した。従来、同一素材同士を鋳造する際は融点が異なるため困難とされており、ステンレスパイプを用いるケースが多かったが、リサイクル機の高まりからアルミ化が進展、需要に対応してこの新技術を生み出した。すでに自動車ブレーキ部品などとして製品供給しているほか、油圧系制御装置部品全般に有効なことから幅広い分野にPRしていく方針だ。(冨越吉洋)

パイプの鋳ぐるみ加工「とともに、溶かした金属の管を仕込むのに有効な加工方法が、同一素材ではセッとしたパイプ材も溶けてしまうため、アルミ鋳造品においては融点の異なるステンレスパイプを使用するケースが多かった。ただ、ステンレスパイプではリサイクルする際、分別しなければならず手間が掛かるのが難点。こうした中、アルミパイプ代替が叫ばれるようになった。従来工法ではパイプが溶けないよう表面処理を施さなければならなかった上、鋳造の際、表面処理した部分がガス化し、バ

サトキン リサイクル性大幅アップ 油圧系制御装置部品に提案

状態の管を仕込むのに有効な加工方法が、同一素材ではセッとしたパイプ材も溶けてしまうため、アルミ鋳造品においては融点の異なるステンレスパイプを使用するケースが多かった。ただ、ステンレスパイプではリサイクルする際、分別しなければならず手間が掛かるのが難点。こうした中、アルミパイプ代替が叫ばれるようになった。従来工法ではパイプが溶けないよう表面処理を施さなければならなかった上、鋳造の際、表面処理した部分がガス化し、バ

ハイテク+技能でイノベーション

を継承すべく若手の人材育成を強化中。同社設備課の4人が技能検定にチャレンジしたところ見事全員が合格、「金型製作技能士」の称号を得た。併せて国の委託を受け、最新鋭のサーボプレス機を導入し、イノベーション創出に向けた新技術開発を推し進めており、今後も注目を集めそうだ。



新規導入したデジタルサーボプレスを前に意見を出し合う設備課のスタッフ

精密プレスの石関プレジジョン

同社は金型設計・製作からプレス加工、洗浄まで一貫生産する精密プレス部品会社。深絞り高速プレスなどを得意としており、弱電関連の小型部品を主力としている。こうした事業展開の中、今のところ、石関社



黒木課長

人材育成の一環として、同社としては初めて、黒木貴司課長をはじめとした設備課4人全員に、国家検定制度である「技能検定」を奨励したところ、全員が実技、筆記試験をパス、「金型製作技能士」2級を取得した。同検定の本県の窓口である県職業能力開発協会(伊勢崎市宮子町)によると、昨年の同職種2級の受験者7人のうち合格者は4人。同社が送り込んだ精鋭のみが合格した形で、あらためて技能レベルの高さが浮き彫りに。同協会でも「年により異なるが、この職種等級の

設備課全員が金型製作技能士

長技能、経験に頼るウエイトは大きい。「これからは中小製造業者が生き残っていくには技能技術を発展的に継承していかないと、それをイノベーションにつなげていくことが不可欠」(石関成彦企画室長と判断)なるが、この職種等級の

群馬に中小企業振興条例を

機運醸成にセミナー開催
群馬中小企業家同友会(事務局・前橋市西片貝町)は9日、前橋市日吉町の前橋市総合福祉会館で、「地域活性化セミナー」中小企業振興条例の制定に向けて、「を」を開いた。同同友会では昨年「中小企業を産業振興の要」と位置付ける条例制定に向けた活動に着

手。同11月には県議会への請願に対して、趣旨採択されるなど、一定の評価を得ており、こうした活動を通じて、制度機運を高めていく方針だ。セミナー開催に先立ちあいさつした古郡登代表理事は「5年後、10年後の経済を作っていくのは私達中小企業。群馬に合

通期決算を上方修正 サンデン2010年3月期 自動車機器欧州向けに堅調

サンデン(伊勢崎市寿町、鈴木一社社長・東証1部)は10日、2010年3月期の第3四半期決算を発表するとともに、主力の自動車機器事業が欧州向けに堅調に推移し

今年度、経済産業省が実施した戦略的基礎基盤技術高度化支援事業「サポートイノベーション」に採択。委託を受け、最新鋭のデジタルサーボプレス(コマツ製)とめっき実験装置を導入するとともに、画期的なLED基板向けのリードフレーム開発に取り組み中であり、同社特有の経営資源を生かしたイノベーション創出

特許・商標

弁理士 巨橋 羽鳥 前橋 231-6288

景気回復に願い込める!
ダルマ使用の外付型HDD
アクテブライズが商品化

パソコン周辺機器の開発・販売を手掛けるアクテブライズ(高崎市巾里見町1209-1、高橋佳樹社長☎027-3374-6090)はこのほど、USB接続の外付型HDD「だるま」の記憶「特上」を商品化した。景気回復への願いを込めた関連商品で、ダルマの大きさは180。同社のネットショップ「えびす屋」(http://www.



「地域活性化のための中小企業振興」をテーマに講演した慶応義塾大学の植田浩史教授は中小企業振興基本条例について「地方自治体が地域の役

愛くるしい299作品が一堂に
第50回近代こけ
第50回全群馬近代こけ
しコンクール(県など主催)出品作品の一般公開品